

# そよかぜだより

第71号  
発行 2008. 4. 20  
毎月1回発行  
NPO法人  
障害者団体連絡会  
そよかぜ

http://www.mmjp.or.jp/soyokaze/  
連絡先  
ひばり園 578-0855  
FAX 578-0466  
くれよん 578-2575  
つくしの家 578-0855  
あおぞら 570-6110  
(お問い合わせ)  
資源回収時のご連絡は  
「ひばり園」へ

## 食品の値上げラッシュ

### 食材費の高騰で苦しむ入所施設

世界中でコメや小麦、大豆、トウモロコシなどの値段が暴騰しています。このため日本でもパン、ラーメン、乳製品などの値上げラッシュになっています。利用者には食事を提供している全国の福祉施設では「食材費が不足する」と悲鳴が上がっています。

入所施設では、年間の食費について利用者と契約しますが、契約した食費では今後の食材費を賄いきれなくなっています。先の冷凍ギョーザ事件以来、安い冷凍食品を控え割高の国産品を多くした結果食材費は苦しくなりましたが、ここにきてさらに値上げのダブルパンチです。

ひばり園やおおぞらは通所施設で、給食もしていないので直接の影響はありませんが、

利用者には三食提供している施設では大変な問題です。食材費を捻出するために必死に頑張っていますが、資金力が弱い施設では経営危機になっています。

いま福祉施設は他の業界に比べて報酬が低いために人材不足で苦しんでいます。そんな状況の中で食材費を補填するために人件費をさらに削れば、施設の崩壊になります。そこで最後の手段として食事の量と質を落とすしかない事態になっています。しかし入所施設利用者は重度障害者が多いので、食事だけが唯一の楽しみという人もたくさんいます。その人たちにとっては大きな処遇の低下になります。食料価格の急騰はいま世界的に大問題になっています。

途上国ではこのためにデモや暴動が起きています。日本政府は七月の洞爺湖サミットで食料問題を環境問題と並べて主要議題にすることに決めました。

富裕層にとっては食品値上げはさほど気にならないかもしれませんが、貧困層にとっては死活問題です。ひばり園の利用者には障害基礎年金や生活保護費によってギリギリの生活をしている人もいます。生活費の中に食費の占める割合が大きいので、その値上げは大問題です。

世界の情勢がストレートに利用者の生活を直撃するといふ、グローバル化を象徴する問題です。資金のある大きな法人はなんとかこの危機を切り抜けますが、資金の少ない法人は悲惨な状態です。そよかぜも社会福祉法人となって新施設を運営することになれば、いろんな事態に耐えられ

るように自己資金確保が大切な課題になります。

そよかぜGWの予定  
ひばり園、あおぞら、つくしの家は4月26日～5月5日まで休みとなります。くれよんは5月3, 4, 5, 6日に休業です。

3月の募金 38,315円  
19年4月～20年3月の合計 539,634円

- |           |   |        |   |             |   |
|-----------|---|--------|---|-------------|---|
| 村上 洋子     | 様 | 高橋 典子  | 様 | 北野 浩美       | 様 |
| とまと美容室    | 様 | 加部 妙子  | 様 | 田中 明子       | 様 |
| 藤野 和子     | 様 | 井上 誠一  | 様 | 森田 勝男       | 様 |
| 帯刀 進      | 様 | エイ・アイ  | 様 | 川崎 利男       | 様 |
| 小谷野 美智子   | 様 | 宮沢 啓   | 様 | 山田 隆章       | 様 |
| 濱野 岬      | 様 | 宇津木 牧夫 | 様 | 村野 理子       | 様 |
| 天満 喜代子    | 様 | 古沢 奈保美 | 様 | 平岡 知子       | 様 |
| 山下 暉枝     | 様 | 渡辺 時三  | 様 | 関村 理        | 様 |
| 国本 昭治     | 様 | 清水 賢   | 様 | 関村 英希       | 様 |
| 山崎 六雄     | 様 | 清水 知子  | 様 | 木村 宏        | 様 |
| 袴田 実      | 様 | 下田 コウ  | 様 | 大野 素子       | 様 |
| 榎本 正代     | 様 | 清水 キヨ子 | 様 | 長谷川 キヌ子     | 様 |
| 松岡 竹子     | 様 | 尾又 恭子  | 様 | 関谷 孝子       | 様 |
| 角野 克子     | 様 | 角野 進   | 様 | 平野 嘉子       | 様 |
| 土屋 三枝子    | 様 | 永岡 智恵子 | 様 | 野崎 敬雄       | 様 |
| 阿部 郁子     | 様 | 田中 稔   | 様 | 山影 幸子       | 様 |
| アールサロンカワノ | 様 | 渡辺 四郎  | 様 | 本間 正彦       | 様 |
| 小沢 達子     | 様 | 吉野 満里子 | 様 | アバンバンデックス   | 様 |
| 斉藤 忠      | 様 | 桜沢 喜作  | 様 | 匿名様(4,606円) | 様 |

ご協力ありがとうございました。

羽村市内の小学校と中学校の生徒のみなさんが、各学校単位でプルトップ収集にご協力して下さいます。ありがとうございます。

3月の募金 38,315円

19年4月～20年3月の合計 539,634円

ご連絡は、ひばり園へ  
羽村市五ノ神2-6-7  
042-578-0855

くれよん3月の売上げ  
955,860円でした。

5月は第3日曜日18日です。  
大雨の場合は、次週の日曜日に順延します。

記憶についての雑感です

## 障害があっても強い記憶力

なぜそのようなか原因は不明ですが

今回は障害のある人の「記憶力」について、思いついたことを述べさせていただきます。まとまりのない記述ですが、お気軽に読み流してください。このようなことを思いついたのは前回のそよかぜで「知的障害でも芸術的な感性においてはずばらしい才能の持ち主がいる」と書きました。その後、感性だけではなく記憶力でもすごい才能を持つ人がいることに思い当たったからです。

実は私自身、記憶力については若い時から強い劣等感を持っていきます。歴史の年代を覚えるのが苦手で、そのために歴史という学科が嫌いになりました。大人になってからも人の顔や名前をすぐ忘れるので、多くの人に失礼なことをして肩身の狭い思いをしています。そんな私が障害のある人と接していて、その人がたしかに知的障害や精神障害

た。この映画の主人公は、ある町のホテルに泊まってその町の電話帳の番号と氏名を全部覚えてしまいました。

サバンの人は「忘れる能力がない」とか、「不必要な情報をつるいにかけるフィルターがない」とか、「左脳に障害があるため直感的にはたらく右脳が発達している」などさまざまな原因がいわれてきました。いずれにしても脳の特定の部分がものすごく発達していることは確かかなようです。

円周率を十万桁まで記憶してギネスブックに載っている人がテレビで紹介されたことがあります。私は年代の四つの数字を覚えることもできないのに、あの無味乾燥な数字の列を十万個も記憶できる人がいること自体が信じられません。その人が障害者なのかどうか番組からは分かりませんが、サバンのような才能の持ち主でなければできないわざでしょう。

サバンはかつて自閉症の人に特有の症状だと見られていましたが、最近になって、先天的な脳の障害である自閉症

だけでなく、後天的な障害である認知症患者の中にもサバンと同じ才能を開花させた人たちがいることがわかり、自閉症者の専売特許ではなくなりました。

このことは、脳の一部に障害があるとそれを補うため別の部分が発達する可能性が高いことを示しています。たとえばかなり重い統合失調症の人で、昔のことをこと細かく覚えていて人がいます。ひばり園に来る前に働いていた会社での同僚とのやり取りを、まるで昨日のことのように詳細に再現します。二十年以上も昔のことです。その話を聞いてみると「この人は病気のために頭の中は混乱しているはずなのに、記憶だけはますます冴えているようだ」と思っています。

私の息子は重度の知的障害ですが、三十数年前に本人が五、六歳のとき住んでいた家の隣のおじさん、お婆さん、子供たちの名前を覚えていて、私自身はとつくりして決まっていた息子が言わなければ決して思い出せない名前でした。

サバンの人が超人的な才能を発揮するといっても、それは大抵の場合、記憶に関するものです。そしてサバンほどではなくても知的障害者や精神障害者の中にはたいへん強い記憶力の持ち主がいることはたしかです。そうなることは自分のことを考えていささか落ち込みます。そんなとき次の文章を新聞で読んで少しうれしくなりました。これは「思考の生理学」というベストセラーで有名な外山滋比古氏が書いたものです。

「長い間、学校で勉強していると知識信仰をもつようになる。記憶は強いほどよい、知識は多いほどよいと思ってしまう。不必要な知識が多すぎるのは不健康で、そうならないためにはほとんど忘れなくてはならない。」

これは私の援護射撃をしてくれるようでありがたいとおもいました。そこで記憶に関して有名人が書いたもので何か他にないかと探して、次の文章を見つけました。十六世紀のフランスの思想家モンテーニュが書いたものです。彼は初めに「私の記憶くら

い不完全なものは世にまたとあるまい。他の能力は人並みに備わっているつもりだが、記憶に関するかぎり私は異常である。私のうちにはほとんど記憶力の痕跡すら認められない。そのため世間の約束事をすぐ忘れてまわりに迷惑をかける。そしてみんなから非難される。しかし私はわざとそうしているのではない。どうか私の病気のせいだとして大目にみてほしい」とさかんに弁解しています。

しかし警句と皮肉で知られた彼はこのままでは終わらせません。次のように言って世事にうろたえる人に反撃しています。「経験上からいうと強い記憶力はとかく弱い判断力と結びついている、とくに危険なのは老人たちだ、彼らは昔のことをよく覚えていて自分に自分がその話をくりかえし語ったことを忘れる」

これは痛快だと私は喜びましたが、すぐがっかりしました。私自身は記憶力と同時に判断力も弱い人間ですから、モンテーニュの言葉の尻馬に乗って喜ぶのは筋違いであると分かったからです。